霧の声、壁を越え。

一・霧の声

――どなたか、いらっしゃるのですか。

……あの、この壁の向こう側……ですよね？

……はい、そうです。私も同じです。

はい。……はい。

ああ……よかった。

気が付いたらここにいて。狭くて真っ暗で……窓も扉も、音も無い。

ひと気も無ければ生活感も無い。……それに、少し肌寒いから。

心細くてどうにかなりそうだったのです。

……ええ。なにも覚えていないんです。

貴方も同じですか？

……そうですか。ここは……一体……。

……冷たい床。床というより地面かしら。まるで乱れた仮山水みたい……。

壁はこれ……木製ですね。随分傷んでいるけれど……古風の日本家屋ですかね。

一体ここは……。

……あ、あの、そこにいらっしゃいますよね？

ああごめんなさいっ。貴方の声が聞こえないと不安で……。

いえあの、常に喋ってくださらなくても良いのですけれど。

ええと、その……しばらく、探索してみましょうか。

少しだけ、暗闇に目が慣れてきましたから……壁沿いになら歩けますよ。

はい、大丈夫です。ここでじっとしていたって何も始まりませんし。

……少し。少しだけ、歩いてみますね……。

あっでも、……すぐに戻ってきてください。

わがままで申し訳ないのですが、お願いします。

あ……。……ありがとうございます。

……。

あの、戻りました。そこにいらっしゃいますか？

……良かった。

あ、ええと、そちらはどうでしょう？　……はい、……はい。

そうですね。こちらも何もありません。

広さは四畳半ほど……天井はひと二人分……といったところでしょうか。

こちらも、そちらも同じ……。それに私達以外、誰もいらっしゃらないみたい。

……うぅん……謎が深まるばかり。

え？　どうかしました？

あ、ああっ――ごめんなさい。私、名乗りもせずに……。

私の名前は、霧……、……あれ？

霧……はい。濃霧だとか、霧雨の霧です。

出だしだけは分かるのですが……ごめんなさい。全部は思い出せません……。

貴方は……？

……。……そうですか。何も覚えていらっしゃらないのですね。

いえ、謝らないでください。貴方は何も悪くないです。

でも、呼び名はどうしましょう……、「貴方」……でよろしいですか？

え？　ど、どうしたのですか。先程からこうしてお呼びしていたのに。

……。あ、……い、いや、そんな、そういう意識はありませんっ・

……ぅぅ。急に顔が……ぼうっとしてきました。……貴方が変な事言うから。

あぁあ、そんな、変な意味はないのですよっ。うぅ、ごめんなさい。

……あ、あの。

もし……。もし、ずっとこのままだったら……。

飢え死に……ですかね。それともこの寒さ……体温がどんどん下がって……。

……や、やめましょうか、こんな話。縁起でもない……。

それよりもこんな、入口も出口も無い空間に閉じ込められた事。

非日常で非現実的な……この事象をどう解釈すれば良いのか……。
お互い記憶が無くて、自分の名前すら曖昧だなんて……どう考えてもおかしい。
ミステリーです。わたし、気になります……。
でも、何も手掛かりがありませんね。お手上げ状態です……。
……こわく、ありませんか？
あっ……。ご、ごめんなさいごめんなさい。
言わないようにしていたのだけれど、つい……。
そ、それに私さっきから謝ってばかりで。……あはは。
……え？
ぅ。かたじけないです。私ばかり慰めていただいて……。
……あ、ぅ……。ありがとう……ございます。
私、本当はすごく怖いです。寂しくて、切なくて、……寒くて。
こんな暗闇にひとり……温もりのない世界で、縋れるのは貴方の声だけ。
貴方の声、貴方の励まし……それが私の唯一の救いです。
貴方がいてくれて良かった……。
お願い。そこから離れないでください……。お願いですから。
……ん……、……やさしい声。やさしい言葉。
やさしいのに心強くて、……ん……♪
とても……心地よくて、落ち着いて……すてき……。
永遠に聴いていたい……まるで小川のせせらぎのようで……。
……えへへ……。
はっ。
わ、私、とっても恥ずかしい事をべらべらと……。
だってだって……貴方とお話していると……心が開放的になってしまうんです。
本音が隠せないの。……顔が見えないからでしょうか。
……と言っても、話すほどの記憶なんてありませんけどね。はは……。
貴方の事もたくさん知りたいですけれど、覚えていらっしゃいませんよね。
せめて名前でも分かれば……なんて。
……ううん。貴方がそこにいる。こうして声を聴かせてくれる。
それだけで幸せです。それ以外に何も要りません。
今はこうして……何かを待つ事しかできません。
色々考えてみます。カケラでも思い出せる記憶があれば良いのですが……。
……。
……あの、これってもしかして……天罰、なのでしょうか。
……いえ、すみません。こんなに寂しい部屋に幽閉されて。
何も出来ず、何も見えず……貴方がいなかったら、本当に孤独で……。
これは神様の罰なのかな、などと考えてしまったのです。
昨日の出来事すら思い出せませんし、
今までしてきた事、為してきた事を顧みる事も出来ない。
善行も悪行も……全てが白紙になってしまいましたね。
うふふ。貴方も私も、ひょっとしたら大罪人なのかもしれませんよ？
世界的犯罪者の名コンビだったりして？　なーんて。あははは。
でも、貴方のような素敵なひとと一緒に過ごしていたのなら……
私はきっと、誰よりも幸せ者だったのかもしれません……ね♪
うふふっ♪

二.霧の恋

あれから何日経ったでしょうか。
気が遠くなるくらい……ここに座っている気がしますね。
不思議とお腹は空きませんし、身体が不調という事はありません。
朝なのか夜なのかも分からず……。
唐突ですけれど、幾星霜という言葉はご存知ですか。
長い年月を努力や苦悩と共に経験してきた現在の事を言います。
私達には……ふさわしい言葉でしょうか。
あったかも分からない日常を奪われ、
してきたかも分からない努力や苦悩を奪われ、
過去も未来もなく、この部屋ひとつに「今」が閉じ込められています。

貴方はどう思いますか。
ここで過ごす日々は……まったく無意味なものなのでしょうか。
……、……ふふ。
貴方はいつもいつも、私の想像を超えた返事をくれますね。
ええ確かに、一生忘れられない思い出になりそうです。
その一生もここで過ごす事になるのかしら。あははは♪
はい。恐怖はすっかり消え失せました。
苦悩や孤独とも無縁です。貴方がそこにいてくれるから……。
……ええ。以前よりは気持ちも落ち着いています。
……貴方が……語り掛けてくれるからですよ……♪　ありがとうございます♪
うふふっ♪
そうですね。
ひとは、いつも時間に追われ焦る生き物ですけれど……
それを奪われるというのも、貴方と話していると……
だんだん悪くないような気がしてきました。
ふふ。そういえば、腕時計をつけ忘れて狼狽えた日があったなぁ。
あっ。貴方もですか？　あはは。あるあるですよね、そういうの。
……、……あれ？　何でそんな事を覚えているんだろう。……貴方も。
少しずつですけれど……記憶が戻ってきたのかしら。これは進歩ですね。
ああそうだ。時計で思い出しました。
先程の時間に追われる話に戻るのですが、
私、本当に時間というものを大切にしていたような気がするんです。
どうしてでしょう？　スケジュールの詰まった生活をしていたのでしょうか。
えっ。貴方もですか？　おぉぉ……。
ふふふふ。いつぞやの犯罪者コンビの説が濃厚になってきましたね？
お主も悪よのう……なんて、えへへへ。
……どうしました？
……。はい、私も……謎が解き明かされていくのが怖くないわけじゃないです。
何もかも解明して……全てを悟って、その時……
貴方は、私はどうなるだろう。どう思うんだろうって……考えたりもします。
でも、でも……！
私は、貴方とどんな関係のひとだったとしても、おかしな経歴があっても、
……貴方を受け入れたい。絶対、これ絶対です。約束です。
貴方はこんなにも優しくて……私を慰めてくれました。……嬉しかった。
こんな状況ですし、天罰なのではないかと言った事もありました。
でも、話を続けるうちに分かったんです。
貴方は悪いひとではありません。善人です……。
とても知的で心優しい、きっと皆から憧れの的になっていた男性ですよ。
……私がどんなひとで、もし貴方が本当の人格を受け入れてくれなくたって、
私は貴方を……認めたい。貴方の存在意義と意思、それら全てを……。
だから、安心してくださいね♪
あっ。わ、私ったら偉そうに何を……ごめんなさい。調子に乗ってしまって。
……ん♪　……もう、本当に優しいんだから……。
私、もっと調子乗っちゃいますよ？　えへへぇ……♪
えぇ？　……貴方も、私を受け入れてくれるの？
いいんですか？　私がどんなひとでも？
もしかしたら、小動物を虐めて喜んだりする非道で外道な邪悪かもしれませんよ。
……そうですか♪
もうもう、嬉しい事言ってくれるじゃないですか。ふふん♪
じゃあ、約束です。お互いどんなひとだったとしても、
どんな経歴があったとしても、受け入れましょうね♪
指は届かないけれど……指切りげんまん、です。
もし破ったらハリセンボン飲んでもらいますからね～？　あははは。
……。あぁ、今一番の願いは……貴方のお顔を一度だけでも見てみたい、です。
きっと年齢も近いと思うんですよね。私は確か二十歳を超えていたかどうか……。
あっそうだ。この壁、いっそ壊しちゃいましょうか。
お互い全力で叩いたりすれば、あっさり崩れちゃうかもしれませんよ。
時間なんてまさしく無限にあるし……ひたすら殴ったり蹴ったりしちゃって。

……あら、そうですか？　ふふ、もしかして顔を合わせるのが恥ずかしいの？
あはは。そりゃあ私だって、ちょっぴり照れ臭いですよぅ。
思い出すと恥ずかしい事も結構喋っちゃってますし……ああダメダメ、
そんな事言わないで。もうっ、こそばゆいんですよっ。めっ。
……くすっ。こんな軽口を言い合えるくらい、怖さもなくなっちゃいましたね。
ここが一体何であるとか、貴方や私が誰であるとか、
段々どうでもよくなってきちゃいました。
ただ貴方がそこにいて、こうして私と接してくれるだけで……他に何も要らない。
これって吊り橋効果でしょうか？　……あっ、じょ、冗談です。ふふ。
でも、らちが明かないですよねぇ。あれから何か思い出しましたか？
……そうですか。ええ、私も全然……。ただこうして会話を展開するだけで、
思わぬ記憶が蘇るのは証明されてますよね。
出身や生い立ち……そんな漠然とした人間の情報じゃなくて、
好きな食べ物や趣味みたいな、身近に常に寄り添ったものの方が、
思い出すには容易い気がします。
日常的な……何か。
……へ？　何か思いつきが？
……えっ。え、あ、い、いまなんと……？
……ふ、ふっふ、夫婦……？　夫婦であると仮定して、考え、る……。
あっ、ぁぁあ……ななななるほどっ！　貴方と、私が。夫婦。はあはあ。
た、確かに合理的ですっ。ふ、夫婦だったら触れ合う機会ばかりで、
うん、その前提で考えるのは間違ってないかとっ。
け、けれど……あの、うう、えっと……ひぅぅ……。
ご、ごめんなさい……ちょっと……意外というか何というか。
そんな大胆な事……あはは。
う、嬉しくないわけないじゃないですかっ。……ドキドキしましたよ。
貴方がそんな風に言ってくれるだなんて……う、嬉しすぎますもん……。
えと、えとえと……夫婦ですよね。
あぅー……ぼんやりしちゃって何も考えられないよぅ……。
……貴方と夫婦……はぁ……とっても素敵ですね。
子供はいたのかな。どんなところに住んでいたのかな。
お仕事は何だろう……。お仕事……？　お仕事……――
あっ。ね、ねえ、貴方はどう思うかな？
はっ。ご、ごめんなさい、急に馴れ馴れしくしちゃってっ。
その、夫婦って考えたら……親近感というか、
距離が縮まった気がして、あ、あはは、ばかですね、私……。
貴方にさっきああ言われて、ちょっと、勘違いというかなんというかぁ……。
ふぇ。……あ。……うん……♪
……すき。
私も……好き。ん……大好きですよ、貴方……♪
……いつも、私を……げんきづけてくれて……そばにいてくれて、
……ありがとう♪

三・霧の怪

あれからまた……途方もない時間が過ぎた気がする。
あのね、ひとつだけ分かった事があるんだ。
私の両手……古傷がたくさんついてるの。
鋭利なモノで切ったような傷です……痛みとかはないんだけど。
刃物を扱う職業か、それともお料理が趣味だったのかも……。
……うん。暗いから見えなかったけど、手でなぞると分かる。
これが私の生きてきた……今のところは、ただひとつの証だね。
貴方はどう？　何か新しい発見はあったかな？
……ううん。名前といい経緯といい、貴方って私よりミステリアスだなぁ。
ふふ、想像が広がるね。手掛かりがないからどんな人物にも成り得るという。
ひょっとしたら魔法使いだったのかもしれないね？
ぷっ……ふふっ♪　いやいやー、ひょっとしたら本当に、かもだよ？
謎に包まれたやさしい声の裏に、冷酷な魔法使いの本性が……！　なぁんて。

はいはい、真面目に考えますよぅ。ふーんだ。
手掛かりといえば、この奇妙な部屋も推測が出来そう。
もしかしてこういう場所に二人で住んでたのかな？　ふふ♪
古臭いかなって思ってたけど、なかなか素敵な家だよねぇ。
引退したらのんびりこんな家屋に住むのも悪くないなぁって感じで……
……ほえ？　引退……？
何の事だろう。……引退って……。
……。
……うぅん、真相に近づいたような、謎が深まったような気分。
ちょっと考えすぎて疲れちゃった。休憩しよ？
……えへへ。たまには甘えてもいいよ？
貴方ったらいつもクールだから……たまには少しくらい弱さを見せてよ。
ぎゅーって……抱きしめてあげる事はできないけどさ……
それでもよかったら、……ね♪
……んふふ♪　意外と甘えんぼさんだねぇ。
よーしよし。大丈夫大丈夫♪　私がついてるからねー……♪
怖くないよ。私が……ずーっとここにいてあげるから。
ん。どうしたの？　……うん、……す、き……だよ♪
……。
……あ、あはは。いつもと立場が逆転してるだけだね、これ。
でも楽しいな。貴方の意外な一面が見れてとっても嬉しい♪
んー♪　いつも頭働かせてますし、のんびり過ごすのも一興だねぇー。
時間があるって良いなぁ……。
って、よほど過密な生活をしていたんだろうね、私……。
ひょっとして過労死でもしたんじゃ……ここ、もしかしてあの世なのかな。
何にせよ、今は慌てなくても生きていける……それすなわち、幸福。
とっても愛しいパートナーもいる事だし……えへへっ。
きゃーっ私ったら何言ってるんだろう。聞かなかった事にしてっ。
あーもうっ、意地悪しないでよっ。もうもうもうっ♪
……あ、あの。
楽しんでくれてる……？
ご、ごめんなさい、今でも急に不安になるんです。貴方の顔、見えないから……
声でしか関わり合えないこの奇妙なキズナは……虚構なんじゃないかって。
もしかしたら、本当はそこに貴方はいないのでは……なんて考えたり。
……、……うん♪
いつもいつも、温かい言葉をありがとう。
その一言だけで……安心する。勇気と元気が出るよ。
もう私、貴方無しには生きていけなくなっちゃったよ……？
責任、とってね……？　なんちゃって。
……う、また恥ずかしい事をぺらぺら喋ってしまった……。
ダメだなぁ。貴方の前にいると、どうしても口が軽くなっちゃって。
どんだけ黒歴史を量産するんだって感じだね。あはは……。
もう、私なんてただでさえ……ひとに語れない過去ばかりだというのに。
……。
はぇ……？
私、今、何て言った……？
……ああいや、忘れて。きっと何か言い間違えただけだから。勘違いだよ。
あ、あはは。
……、あの。
最近、考えてしまうんだ。
この部屋、この空間。まるでひとの人生そのものみたいだなって。
ごめんね、いきなり変な事を言って。
貴方が、私がどんな世界を生き、どんな時間を過ごしたのかは……
分からないけど、ひとって、内側だけは誰にも見せようがないよね。
私達は、心という箱の中に感情や想いを閉じ込めてるから。
それを言葉にして口から吐き出す事はできるけど、
どんなに互いを信頼し合っていても、
その言葉が、気持ちが真実かどうかなんて、確かめようがないんだよね。

……分かってもらえたかな？
うん、さながらこの空間は、ひとの心そのものだなって感じたの。
ここで私が笑っても、泣いても……貴方には決して見せる事が出来ない。
ひとの人生は……最初から最後まで、箱の中から出られない、と……。
……あれ？　あれ、あれ？
何だろう。この感じ。この、感情。
……おかしいな。こんなの、だって、……こわくないのに。
貴方がいてくれるから、そこにいてくれるから……こわくなんてないのに。
どうして……グスッ……こんなに溢れてくるんだろう。
ご、ごめんなさい……私、変なんだ。ばかだから……あはは。
ひぅっ、ぐすっ、ぅぅ……くすん……ぅぅぁぁ……
んっ……あり、がと……もぅ、やさしいなぁほんとに……
私、もっと強くならなきゃ……だめなんだ……こんな事で泣いちゃ……
もっと、もっと……強くないと……強く……。
つよ、く……？
……。
あ……いや、何でもない。違う、私はそんな強いとか弱いとか……あれ？
アッぁ……何？　だ、ダメ、それ以上はやめて。
なんか、おかしい。そんなに声を荒げないでくださいッ。
やめてっ！　おかしいのッ、貴方の声を聴いてると、なんだかっ、
何か、何か来る！　何かが頭にッ――！
あっ――――
あれは……そう、強くありたいと願った……私だ。
あの日。あの瞬間、あの、景色……。
……わ、私……は……嘘……そんな、嘘だ……嘘、嘘、嘘嘘嘘嘘嘘……！
ぃゃああ……だって、そんな事……ありえなィ――
ありえッ――
は、はは……ははははッ――あははははははははッ――――――！！！
アハハハハハッハハハハハッ――――――！！！！

四.霧を越え

この……手。迫る、時間……全て……私。
そうだ……そうだ……
そうだそうだったそうそうそうそう。私、そうだ……。
得意先に金を積まれて……依頼されたあの仕事……
あの日、あの夜、寒い。暗い。こんな砂利に囲まれた古い家だった。
……ターゲットはそこの住民……若い男……！　名前、名前知らないッ……！
わたっわだじはッ――しくじった。彼の寝首を掻けず揉み合いになって、
……そ、その、そのひと、……さっささささ、さっさし――
刺し違ってッ――――――！！！！！
ぁっァアアアアアアアアアアアッ……――――
私がッ――貴方をッこ、殺したんだッ！
ころ、こ、ころすとき……抵抗されて、刺されてッ、それでっそこからは――
……覚えて、ない。
つまり……今？　ここは、あの記憶の……続き？
あ、あぁ、あああああああ……あ、あな、た……
ごめんなさい……
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい――
私、私ッ……そんな事をしてっ、貴方にィ……！
……ひっ。あ、ぁあ……！
やめて、やめて！　声をかけないで！　もうやめてっ。
全部私だ。私のせいだ！　貴方と話すのも、声を聴くのも！
語り合うのも！　好きにっ……なるのも……許されない……！
許されるはずがないッ。……どうして、私は……そんな大事なことを……
うぅぅうっ……うぅうううう……！！
……声をかけないでって言ってるでしょう！？

思い出したくなかった。こんな過去……！
私は……暗殺者だったんだ。
いつもいつも仕事に追われ、秒刻みで現場を駆け回るフリーランスの暗殺者。
それが、私……佐江戸霧子の全て。
……死んだんだ。
貴方も、私も。
いや、違う。殺したんだ。
私のせいだ。
……なんでよ。なんでまだそんな声で私に語り掛けるの？
私が全て悪いんだよ！？　どうしてそんなっ、そんな、ずっと……変わらず、
やさしい声を……やさしい言葉を……私にかけるの……？
わけが分からない……だって、だって……！

……やくそく……？

……私が……どんなひとであったとしても、
どんな経歴があったとしても……受け入れて……

……おかしい。おかしすぎるよ。貴方は……
口約束は……ひとの世界では何の価値も無いって事、知ってるでしょう。
そんな事くらい……貴方なら分かってるでしょう！
わたっ私だって……破りたくないよっ！
でもだって、仕方ないでしょう！？　こんな、こんなさ、こんな事……！
……。
……はぁあぁ……。
ここは……そうだね。確かにひとの世界ではなかった……死者の世界……。
……何？　その屁理屈。
過ぎた事は仕方ない、か……。……貴方も、馬鹿だね。
仕方ないで片付けられる事と、そうでない事があるんだよ？
なのにさ、取り乱さない貴方は……本当に、心の底から……馬鹿だと思うよ。
呆れて怒りも悲しみも吹き飛ぶくらい……。
……。
……ねえ。
……ありがとう。
ありがとう。引き金を引いた私を……愛してくれて。
今でも、好きでいてくれて……ありがとう。……ありがとう……。
生まれてから一番不幸な時なのに、それ以上に幸せを感じるなんて……。
……うん……私も……大好きだよ……愛してる。愛してるよ。
……ッ……なんで、なんで私達……こんな出会い方をしたんだろうね。
もっともっと違う世界で……貴方の顔を見たかった。
そこでだったら……私達……うまくやれたかな？
血も涙も流さなくて良い……そんな世界で……結ばれたのかな？
……貴方と……。
ねえ、貴方……
私……すごく、眠いの……
……貴方も……？　……そっか……
ああ……離れたくない。
ずっと、貴方と一緒に……でも、もう……ダメみたい。
止まっていた時間が……動き出しちゃったから……。
……ずるいなぁ。こんな時に名前呼ぶなんてさぁ……。
出来る事なら……私の名前、忘れないでいて……ほしいな。
貴方の名前も……教えて。
……綺麗……。貴方に相応しい、やさしくて温かい、
とっても……素敵な名前……だね……。
愛しい……大好きな……貴方の……
あり……が……とう……
あ――り――

（終）